

2026
新春号

いでちゃんねる



松戸市議会議員 公明党 井出 まさこ

2025
市議会 12 月定例会より

児童生徒の健やかな成長のために ～低学年の不登校の現況と支援～



全国的に低学年の不登校が増えています。松戸市でも同様の傾向があり、「朝起きられない」「学校に行く元気が出ない」「お母さんと離れるのがつらい」といった声が背景にあります。

まだ自分の気持ちをうまく言葉にできな

い年齢だからこそ、周りの大人が早めに気づき、寄り添うことが大切です。

松戸市では「スタートカリキュラム」を導入し、複数の先生配置や短時間授業などで安心して学校生活に慣れられる工夫をしています。

私は、スクールカウンセラーやソーシャルワーカーの巡回をさらに充実させ、保護者も気軽に相談できる体制を広げるよう要望しました。

児童生徒の健やかな成長のために ～わくわく！小学校体験ルーム～

小学校入学は子どもにとって大きな環境の変化です。松戸市では入学前に学校生活を体験できる「わくわく！小学校体験ルーム」を開設しました。

私も見学しましたが、黒板や時間割を見て歓声をあげる子どもたち、ランドセルを背負って嬉しそうに歩く姿、給

食当番の白衣を着て誇らしげな笑顔…。その一つ一つに期待と喜びがあふれていました。

この事業は先生方の負担を増やさず、アイデアと工夫で進められている点も特徴です。今後は保護者への情報提供をさらに充実させ、松戸市ならではの「幼保小の架け橋」を広げていきたいと考えます。



児童生徒の健やかな成長のために ～いじめの早期発見と相談体制～

全国でいじめの認知件数が過去最多となり、特に言葉によるいじめが増えています。松戸市でも相談ダイヤルカードの配布、スクールカウンセラー・ソーシャルワーカーの巡回、匿名相談「こども SOS 相談」など、多方面から支援体制を整えています。

私は、保護者が家庭で子どもの様子をチェックできる仕組みをさらに広げるよう提案しました。子どもも保護者も「一人で悩まなくていい」と思える環境が大切です。

いじめは学校だけの問題ではなく、子どもやその保護者の環境整備を含めて、社会全体で取り組む課題です。子どもたち、そして保護者が一人で悩まず、気軽に相談できる仕組みの充実を推進してまいります。

児童生徒の健やかな成長のために ～登校困難な子どもの健康診断～

学校で行う健康診断は命と健康を守る大切な機会です。しかし登校が難しい子どもや欠席した子どもは受診できない場合があります。

松戸市では医師会・歯科医師会と協議を進め、学校外でも健診を受けられるよう「ふれあい学級」「ほっとステー

ション」や保健福祉センターを会場にする方向性を示しました。これは大きな前進です。

私は、保護者に健診の重要性を分かりやすく伝える工夫をお願いしました。事情に寄り添った柔軟な受診支援を確実に進め、すべての子どもが安心して健診を受けられるようにしていただきたいと思います。



未来の宝、子どもたちのために

自分らしく成長できる環境をつくるために、これからも市民の皆さまと一緒に、温かいまなざしで子どもたちを支えるための施策を推進してまいります。

外国人市民向けの

ごみ分別案内について

近年、松戸市でも外国人市民が増えています。ごみ出しのルールを正しく伝えることは、地域で安心して暮らすための大切な課題です。

市では、英語・中国語・韓国語・ベトナム語版の「家庭ごみの分け方出し方」チラシを作成し、市役所や支所で配布しています。今年度からは簡易版チラシを英語・中国語・ベトナム語・ネパール語で作成し、インドネシア語版も準備中です。さらに、チラシの概要を動画にして市ホームページで公開しています。

平和事業のさらなる推進について

松戸市では、戦争の悲惨さや命の尊さ、核兵器廃絶の重要性を次世代へ継承するため、さまざまな平和事業を行っています。

平成 20 年度から始まった「平和大使長崎派遣事業」は、若い世代が被爆地の歴史に触れ、平和の大切さを語り継ぐ担い手として成長する意義深い取り組みです。

派遣された平和大使は、帰庁後の報告会や学校での発表、毎年 11 月の「平和の集い」でメッセージを発信しています。また、歴代の平和大使は、司会進行や会場設営にも携わり、若い世代が主体となる活動の芽が育まれています。この度の「令和 7 年度 平和の集い特別版」では、親子平和大使の広島・長崎派遣報告会が行われました。「平和を伝える」「命を大切にすると語る姿に、本市の平和事業が未来へつながっていることを実感しました。

本年、戦後 80 周年を迎え、私は親子で平和事業に参加しましたが、特に心に残ったのは、日本原水爆被害者団体協議会・児玉三智子さんの体験談です。「核兵器で人の命は救えない」「核兵器・戦争のない世界をつくる、それが大人の責任です」との強い訴えは、私たちの胸に深く響き

また、日本語学校に通う学生に向けて、市内 2 校でデモンストレーションを交えた説明会を実施し、他の学校でも調整中です。地域の協力を得て、違反ごみを教材にした分別指導も始まっています。

私は、転入時の住民票手続や賃貸契約時に多言語チラシの配布やごみ出しルールの説明動画の配信等を、容易に視聴できる導線を確認するなど、周知強化を要望しました。さらに、企業や管理会社、町会と連携し、ごみの代用品を教材とした伴走型の分別指導を進め、外国人市民が安心して暮らし、地域の一員として共に支え合える環境づくりを推進していただきたいと訴えました。

ました。

私は、平和は当たり前と与えられるものではなく、世代を超えて築き語り継ぐ営みであることを強調しました。松戸市平和記念展「未来へとつなぐ平和」に展示された被爆者の証言は、市民の小さな声を原点に命の尊さを次世代へ継承する大切さを示しています。

今後、被爆体験を語る方が少なくなる中、平和大使 OBOG の力を結集し、若者と共に創る仕組みを整えることが重要です。若い世代が主体となり、平和を自分ごととして考え、同世代へ発信し、地域社会へ広げていくことが求められます。

私は、西東京市の事例を紹介し、本市でも、若い世代の柔軟な発想を活かした情報発信を進めていくとの答弁がありました。

戦後 80 周年、松戸市世界平和都市宣言 40 周年の節目を契機に、核兵器のない平和な世界を築くため、市民の声を未来へつなぐ平和事業を一層推進し、活動の支えである平和基金の更なる充実を心からお願い申し上げます。

「松戸市議会議会中継」
の動画アーカイブはこちら



みなさまの力がカタチになりました！



みなさまの声を寄せください

070-6520-0764

m.ide.matsudo@gmail.com

公式 HP 最新情報発信中！



SNS 情報・ブログ・実績など
見やすくリニューアルしました！

井出 まさこ

\\ SNS で情報発信中 /

お使いの SNS で最新情報チェック！

